

■演題 11 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡併用手術の比較検討

代表演者：庄司佳晃 先生

(慶應義塾大学医学部外科学教室 一般・消化器外科／慶應義塾大学病院腫瘍センター)

共同演者：[慶應義塾大学医学部外科学教室 一般・消化器外科／慶應義塾大学病院腫瘍センター]

竹内裕也、後藤修、川久保博文、中村理恵子、高橋常浩、和田則仁、矢作直久、北川雄光

【背景】GISTを含む胃粘膜下腫瘍に対する手術は通常リンパ節郭清を要さないためより低侵襲な術式が求められ、腹腔鏡下胃局所切除術が盛んに行われてきた。近年、より低侵襲な治療として内視鏡を併用した術式が複数の施設で導入されてきた。

【方法】当科では2012年以降腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術(LECS)、NEWS(非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術)、内視鏡補助下腹腔鏡的胃全層切除(CLEAN-NET)をそれぞれ導入した。各術式における患者背景、手術因子、術後経過に関して後ろ向きに検討した。

【結果】2012年1月-2015年12月の間、当科では85例の胃粘膜下腫瘍に対する手術が施行された。そのうち、他臓器合併切除を伴わないLECS、NEWS、CLEAN-NET計41件に関して比較検討した。症例数はそれぞれLECS 12例、NEWS 22例、CLEAN-NET 7例であった。CLEAN-NETは壁外発育型の腫瘍で主に選択され、LECSはDelleのある症例では選択されなかった。また、NEWSは比較的小さい腫瘍で選択された。その他患者背景や手術因子には有意差を認めなかった。術後第1、第3病日の炎症反応(CRP)はNEWS群で有意に低く、術後在院日数もNEWS群で有意に短かった。腫瘍に対する胃壁の切除面積比を切除検体を用いて計測した所NEWS群で有意に小さかった。いずれの群でも明らかな合併症は認めなかった。

【結語】胃粘膜下腫瘍に対する術式として、LECS、NEWS、CLEAN-NETはいずれも安全に施行可能であった。本検討で示唆されたNEWSの低侵襲性は胃内容物が漏出しないことに起因すると考えられ、他術式を施行するには更なる工夫が必要であると考えられた。